

人生ハンドブック

第7号

H. 14. 10. 1
(毎月1日発行)

編集・発行
玉蓮山
真成寺
編集部

功を積み

「をかさねる

人生

住職 谷川 寛俊

世の中には色々な生き様があり、例えば信仰心のかけらも無く悪事にも手を染め、身勝手に自己中心的な生き方をしている、財力や権力そして子宝にも恵まれ、家庭内も調和し、幸せそうに面白おかしく一生を終えていく人もいます。

それでは何故この様な人生の不条理が起きるのかを、因果応報である三世の因果で考えてみる事にします。私達の靈魂は様々な肉体(媒体)を借りて、生まれ変わり死に変わりし、輪廻転生して始まりも無く終わりも無い無始無終の存在であり、永遠久遠の生命を生きているのであって

過去世、現世、来世の三世にわたり、過去世の生き様が原因となって現世には皆平等にその報いが結果となって現れて来るのです。そして常に、繰り返される過去、現在、未来の因果は、何回生まれ変わってもその法則から抜け出す事は出来ないんです。前述の前者の人生を客観的に見れば、非常に羨ましくも見えるのですが、見方を変えれば実はこのタイプの人は御先祖様や過去世の自分が積んだ功德の貯蓄に守られた人生だったともいえる訳で、それに気付かず何の感謝もせず、ただこの功德の財産を食いつぶして来ただけの生き方だったと言うことです。この功德の財産には利息が付きますので、常に積み続けなければどんどんに沢山有ってもどんどん減り続け、ついには無くなってしまい、最終的にはどんどん累積赤字として膨らんで行くのです。その人の功德の累積は死ぬまでに赤字にならなかったと言うだけで、来世への不安は有って

も保証はどこにも見当たりません。日蓮大聖人様は一切衆生皆成仏の大慈悲心を以って、命懸けで法華経をお弘めに成られ、そして大難はしかど小難は数知れずの法難に遭遇されました。普通の人であれば法華経を弘めて大衆を救済すると言う立派な生き方をして苦難に遭えば何と理不尽なんだろうかと嘆きますが、大聖人様の崇高な悟りの境地からのお言葉を押せば、法華経を弘めると言う良い生き方をして、苦難に遭うという事は、これで過去世の罪障が一つ一つ消滅して、功德の貯蓄が増えて来世の成仏が次々と確定していく事であって、それを思うと嬉し涙ばかり流れてとても幸せであり「日蓮は日本国で一番富める者なり」といって教示下されています。信仰心厚くボランティアな良い生き方をして何一つ良い結果が現れないタイプの人は、過去世の累積赤字や宿題を持ち越して今生に生まれ来たことを悟って、決して現状を嘆き放棄しないで、しっかりと法華経お

題目の信仰に励み、良い行いをして苦難に出会うことで過去世の功德の借金を返済しているのだと悟り、返済を行い続ければやがては長期ローンも完納出来て、今度は功德の貯蓄を増やして行く事が出来るのでしよう。人々はともすると恵まれている時には功德を積み忘れ、苦しくなると思いがちです。生まれる度に思い出したり忘れたり、徳の蓄積者に成つたりのくり返し。久遠のお釈迦様は、我々の功德残高メーターが減って来ると事故や病気で知らせてくれます。願わくは何時も功德を積み続け、生まれる度にどんどん功德が増えて行き、何時も感謝のお題目が唱えられる魂でありたい。そして万人の魂の幸せを願ってお題目を唱え、行動する人でありたい。皆様、大聖人様のように甘露の涙が流せる人生を共に歩んで参りましょう。